

昼間の消防力 向上へ



市役所本庁舎に勤務し、地元の消防団に所属している職員らで「関市消防団市役所隊」を結成しました。当番制で、建物火災と林野火災が発生した場合は勤務中でも消火活動に向います。市役所隊の組織化

は県内では初めてのことで、団員が出動態勢をいち早くとって消火活動にあたることは、市民生活において大きな安心感をもたらします。結団式で関市の安全・安心に向けての結束を誓いました。

あんな事、こんな事



大地の恵みを園児が収穫

子どもたちに土に親しんでもらおうと、関市老人クラブ連合会の主催で「ふるさと農園美の関」の畑にてふれあいイモ掘り体験があり、市内16の保育園・幼稚園の園児1,200人が参加しました。泥まみれになりながら素手で一生懸命に土を掘り起こし、大きなサツマイモを見つけると力いっぱい引き抜いて「見て、見て、おっきいのとれたよ」と誇らしげに見せ合っていました。畑は、園児たちの歓声と笑い声につつまれました。

福祉の窓を広げます

福祉の大切さは言うまでもありませんが、障がいのある人や介護の必要な人に接する方法や気づかないことも多くあります。関市文化会館で開かれた福祉フェスティバルでは、子どもたちの鼓笛演奏やダンスなどでにぎやかな雰囲気の中、社会福祉協議会各支部のバザーでボランティアの力を、作品展示や手話・点訳の体験などで福祉への第一歩を知ることができ、多くの人に関心を持って参加していました。





飛び出す映像に大歓声

「3D全国小学校キャラバン上映会」が市内で開催され、8校が体験しました。これは、日本自転車普及協会の主催で、次世代の映像である3Dを子どもたちに観てもらい、夢や希望を与えられればと実施されたものです。元競輪選手の中野浩一さんがキャスターとなり訪問されました。倉知小学校では全校児童ら500人が鑑賞。専用の眼鏡をかけた児童は、目の前に迫ってくる映像に歓声を上げていました。

身近な場所で新たな発見

「市内のあの施設ではどんなことをしているの」「板取の自然を見てみたい」そんな市民の皆さんの疑問や希望にお答えし、市政への理解と関心を深めてもらおうと、市政見学バスが2日間運行され、円空館や関善光寺など計15カ所に立ち寄りました。訪れた方は、熱心に説明を聞いて「知らないことも結構あるんだ」と新しい魅力を見つける機会となりました。



火あそびは絶対しません

市内の保育園・幼稚園の園児と消防職員のふれあいを通して、子どもたちに火災の恐ろしさや防火の大切さを知ってもらおうと、わかさ・プラザで「チビッコ消防ひろば」が開かれました。会場では、参加した園児ら約870人が、消防車との綱引きや煙道体験、測定器に向かって「火事だ」と大声で叫ぶ練習などのイベントを楽しみながら、消防への関心を高めました。

板取小・海の生き物調査団

「緑と水の会議」の一環として、板取小学校全児童が愛知県美浜町の海岸で海の生き物を採集して調査したり、地元の方から山と川と海のつながりについて学ぶ体験をしました。山の栄養がいっぱい入った川の水が流れて、海辺の生き物の栄養になっていることを聞き、改めて身近な自然に関心を持ちました。海に来る機会の少ない子どもたちは、イソギンチャクやカニなどにふれて思い出を作りました。



こぼれ話



10月下旬、名古屋市の陸上自衛隊守山駐屯地へ行き、市の幹部職員とともに災害時の情報処理訓練を受けました。訓練時間は3時間でしたが、その間、災害対策本部の電話が鳴り止みませんでした。まず、死者・行方不明者・避難者の人数や倒壊家屋の軒数、火災やがけ崩れの箇所などの情報が寄せられ、時間が経つにつれて、通れる道路の照会や別の避難場所の案内、救援物資の申し出、現在の被災状況の確認などさまざまな電話がかかってきます。

内容を間違えないように復唱しながら紙に書いていくのですが、走り書きになってしまい手がついていかず、受話器を置いて情報をまとめようとすると次の電話がかかってくるという具合です。訓練は3時間で終わりましたが、実際の災害では今回以上のさまざまな情報が長時間にわたって入ってくるのが予想されます。

「常に最悪に備え、最善を夢見よ」。訓練資料にあった言葉ですが、災害が発生しても最善を夢見てあきらめない気持ちで、現状の正確な把握と迅速な対処に臨むことが大切だと思います。